

花と緑に彩られた、住んで心地よい鴻巣を  
みんなでつくっていきましょう！



平成20年3月

鴻 巣 市

# 『環境基本計画』は「環境まちづくり」の指針です

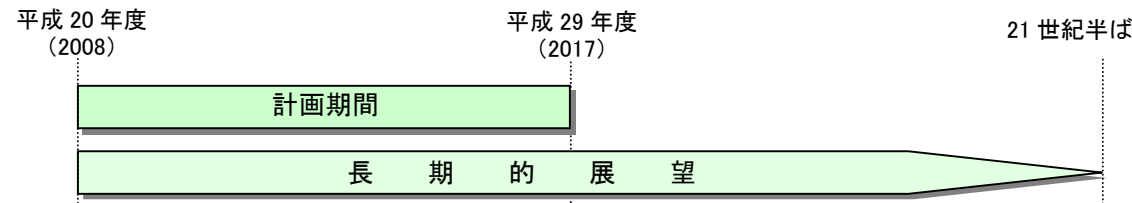
# 鴻巣市が目指す望ましい環境像

平成14年度に旧鴻巣市、旧吹上町で『環境基本計画』を策定してから5年が経過し、その間には、合併をはじめさまざまな社会情勢の変化がありました。そこで、拡大した市域の環境特性を反映させるとともに、地球温暖化対策への対応や環境施策のより一層の効果的な推進に向けて計画の見直しを行いました。

『鴻巣市環境基本計画』は、将来の鴻巣市の望ましい環境像と、それを実現するための取組の方向性を示したもので、市が市民や事業者との協働のもとで環境行政を総合的かつ計画的に推進することを目的とした「環境まちづくり」の指針となる計画です。

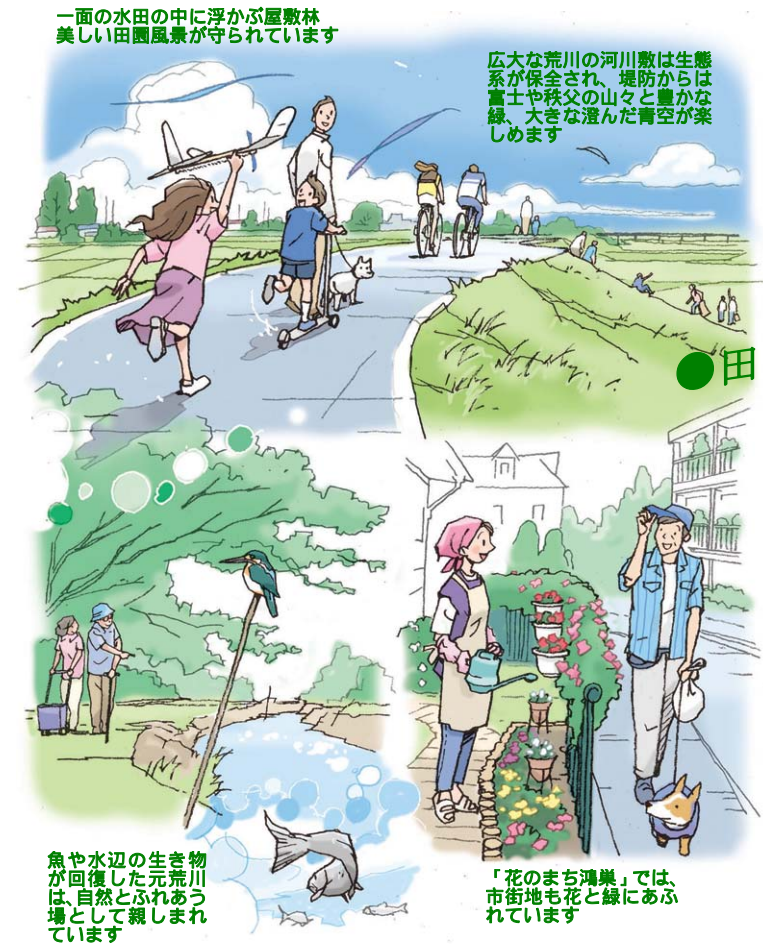
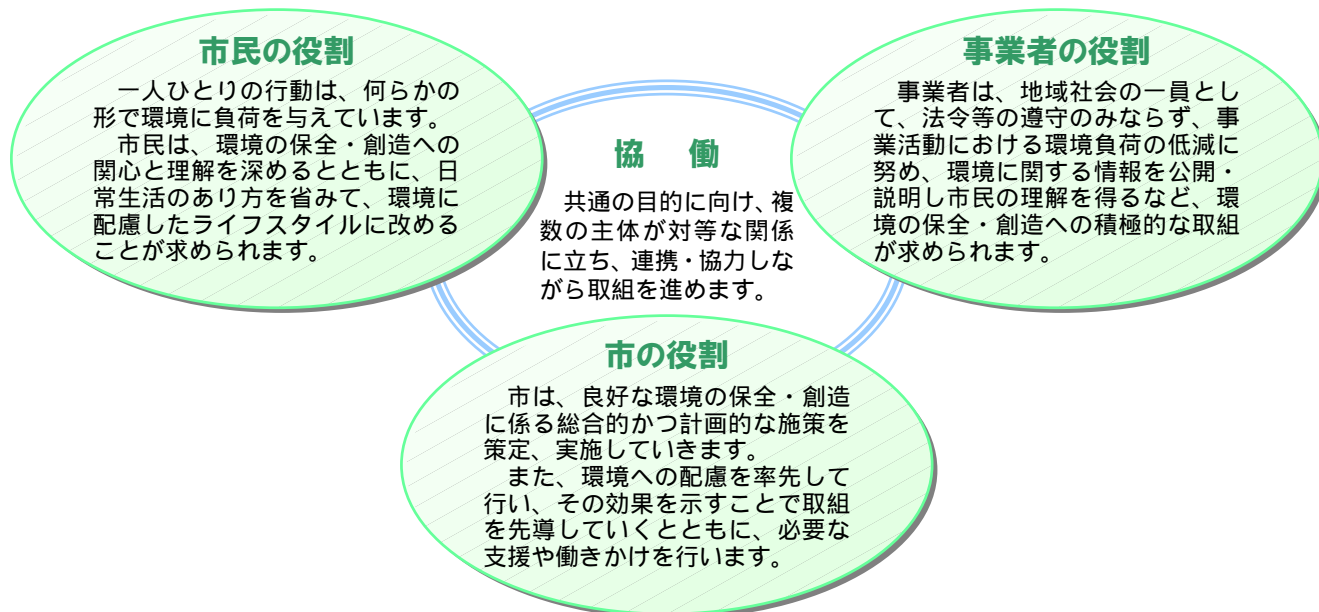
## 計画の期間

環境を対象とした計画では長期的視野に立つことが重要であることから、計画期間は、21世紀半ばを展望しつつ、平成20年度から29年度までの10年間とします。  
 なお、5年を目安に、取組内容等について弾力的に見直しを行います。



## 市民・事業者・市の役割

「環境まちづくり」は、市民・事業者・市がそれぞれの役割にのっとって取り組んでいくだけでなく、共通の目的に向け、連携・協力しつつ役割を果たしていく「協働（パートナーシップ）」の考え方で取組を進めていくことが大切です。



●田園と荒川・元荒川の自然に親しみ、花と緑に彩られたまち

●安全安心で快適に暮らせる健康ライフのまち



●一人ひとりがエコライフを実践しているまち

# この計画は下図の体系で施策を進めます

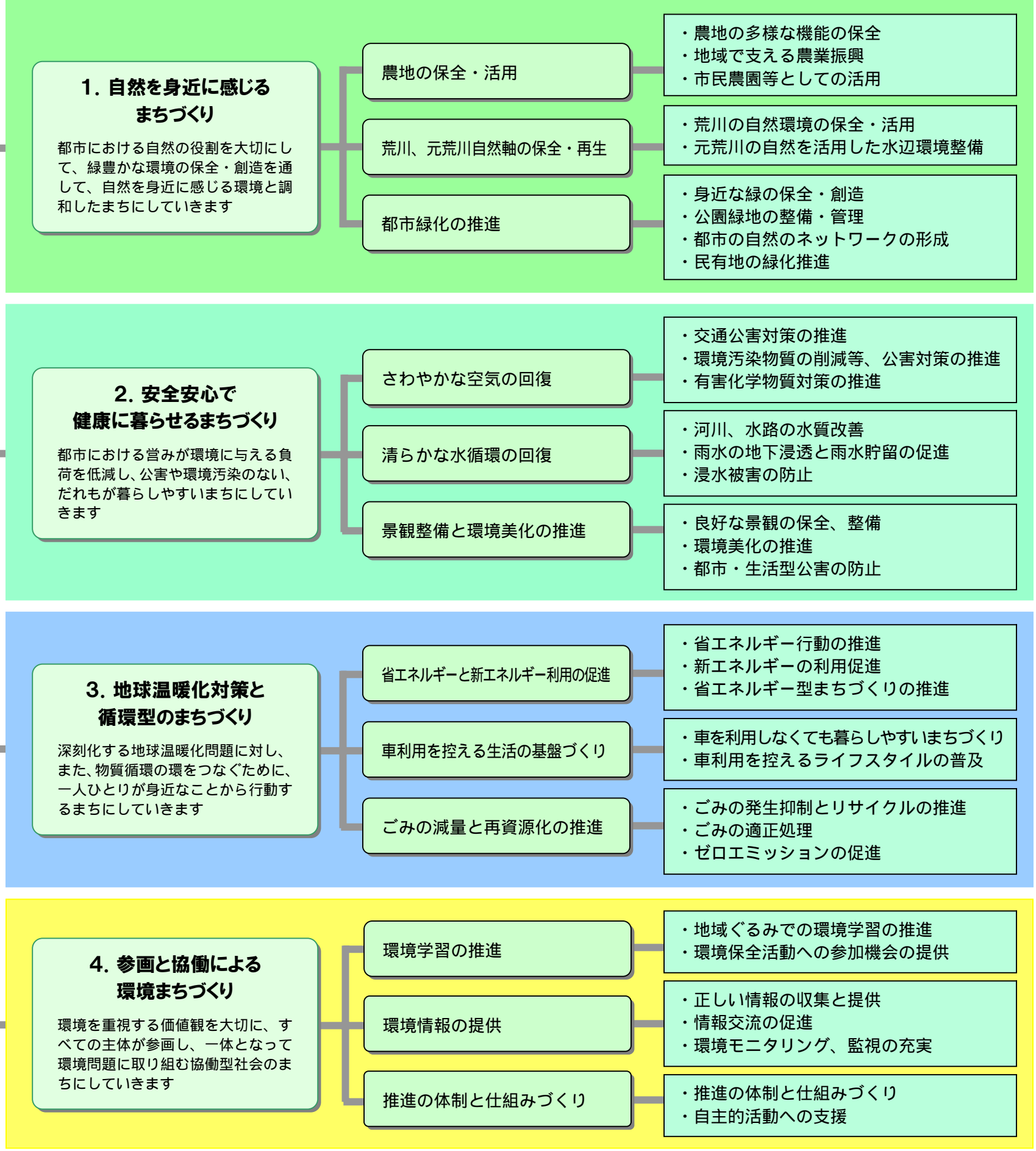


計画の理念のもとで、望ましい環境像の実現に向け、4つの基本目標に沿って取組を進めます。  
さらに、戦略的に取り組むテーマについては、重点プロジェクトとして、市民・事業者・市の協働で先行的に進めます。

一人ひとりの行動から  
花と緑に彩られた、住んで心地よいまちに  
鴻巣を変えていこう！

- 田園と荒川・元荒川の自然に親しみ  
花と緑に彩られたまち
  - 田園景観が保全され、農業のほか、市民農園等として活用されています
  - 荒川と元荒川の自然が回復し、風のみちとして、自然に親しむ軸として活用されています
  - 市街地は花と緑に彩られています
- 安全安心で  
快適に暮らせる健康ライフのまち
  - 環境負荷の低減によりさわやかな空気、清らかな水が享受できています
  - 公共交通の充実や歩いて楽しい環境づくりで活力あるまちが回復しています
  - みんなが緑を育て、自然に親しむ生活をしています
- 一人ひとりが  
エコライフを実践しているまち
  - 省エネ、リサイクルなど一人ひとりができる取組を実践しています
  - 車の利用をできるだけ控え、使うときはエコドライブを実践しています
  - すべての人が自然に親しみ、環境を学ぶ姿勢を持っています

1～3の目標を達成するための基盤づくり



- 重点プロジェクト①  
土地利用の半分を占める農地の保全と活用
- 重点プロジェクト②  
市の中央を流れる元荒川の自然再生と活用
- 重点プロジェクト③  
自転車が便利なまちづくり
- 重点プロジェクト④  
できることからエコライフ運動

# 重点プロジェクトは市民・事業者・市の協働で進めます

重点プロジェクトは、戦略的な展開が期待されるテーマを設定し、総合的、先行的に取り組んでいくプロジェクトで、協働の考え方に基いて、市が適切な支援をしつつ市民や事業者の皆さんが主役となって進めていくものです。

多くの皆さんの発意と行動を集積させ、よりよい環境をつくっていきましょう。

## 重点プロジェクト

### 1 土地利用の半分を占める農地の保全と活用

地域の約半分を占める農地は、鴻巣の産業基盤、環境基盤、景観基盤として重要な要素であり、農業従事者と連携し、健全で美しく生産性の高い農地を保全するとともに、農業や田園環境とのふれあいの場として活用し、多くの市民が農地や農業について理解し、農や食を通して環境を考える契機にします。

#### 【取組の方向】

- 水田の自然生態系を回復させよう
- 環境を守っている農家を応援しよう
- 土や農業に親しもう



## 重点プロジェクト

### 2 市の中央を流れる元荒川の自然再生と活用

地域の中央を縦断し自然性の残る元荒川は、風のみちとして、自然に親しむ場として、水辺の自然環境の再生と活用が期待されます。市民が真に親しめる元荒川の再生に向けて、まず、多くの市民が元荒川の水辺に親しむこと、水辺の現状を調べること、どんな川にしていくなかを話し合うことから始めます。

#### 【取組の方向】

- 元荒川の自然に親しもう
- 水辺の今と昔を調べよう
- 元荒川の将来像を話し合おう



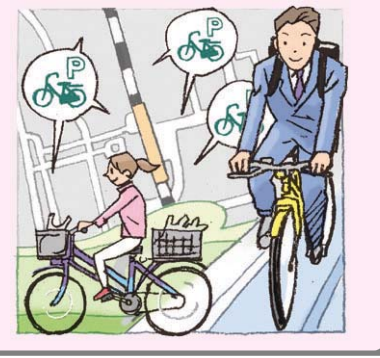
## 重点プロジェクト

### 3 自転車が便利なまちづくり

地球温暖化対策の一つとして、車利用から自転車や徒歩、公共交通の利用への転換が求められています。意識調査でも歩行者自転車空間へのニーズは高く、地形が平坦で自転車利用に向いている特性などを生かし、環境に加え、安全、健康などの視点から、これからの「まち」や「みち」のあり方を考えていきます。

#### 【取組の方向】

- 地域で考えよう
- 商店や事業者といっしょに考えよう
- アイデアを考えみんなに伝えよう



## 重点プロジェクト

### 4 できることからエコライフ運動

地球温暖化対策は、一人ひとりがライフスタイルを少しずつ変えていくだけでも、その積み重ねで大きな効果が期待されます。鴻巣ではエコライフが常識となるように、楽しく、お得に、おしゃれにできるエコライフのアイデアをみんなで考えるとともに、行動を促す情報発信やイベント等を行い地球温暖化対策に貢献します。

#### 【取組の方向】

- 省エネルギーを実践しよう
- ごみを減らそう
- アイデアを考えみんなに伝えよう



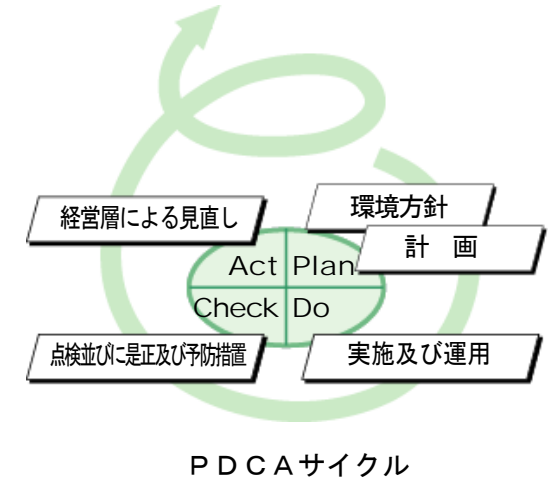
# この計画を実現させるために

## 進行管理

### ●PDCAサイクルを活用した進行管理

本市では、平成 17 年度末に ISO14001 の登録解除をしていますが、本計画の進行管理に当たっては、「PDCA サイクル」の考え方を引き続き取り入れ、施策・事業を、毎年の点検・評価、見直しを経て、翌年に反映させることで、計画の実効性を高めます。

環境への負荷を低減していくための「方針・計画 (Plan)」を立て、それを「実行 (Do)」し、その達成度を「点検・評価 (Check)」し、結果をもとに「見直し・改善 (Act)」するという PDCA サイクルを繰り返して行うことで、継続的に環境負荷の削減が図れます。

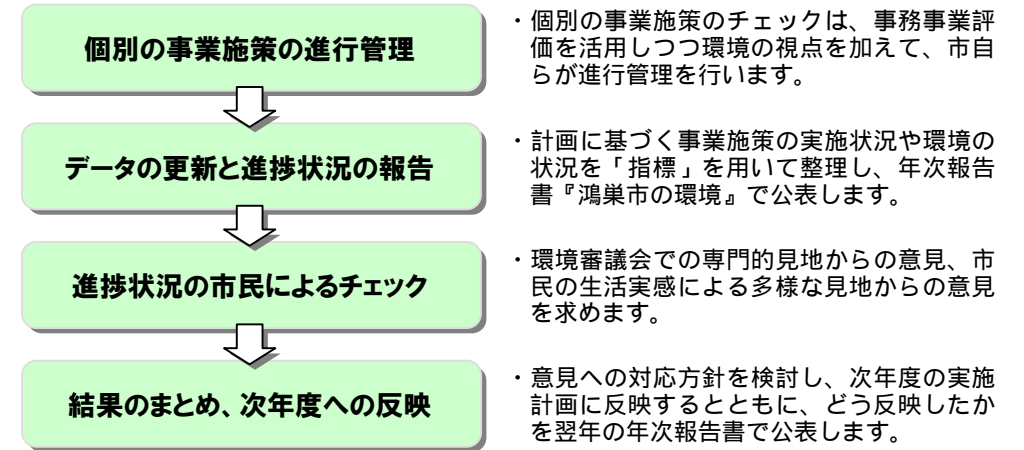


### ●指標による点検・評価

進行管理においては、計画に基づいて取組が展開されているかどうか、また、取組の結果、環境が目標に向かって改善されているかどうかを継続的に点検・評価することが必要となるため、客観性を持った判断の根拠となる「指標」を設定することにより、可能な限り定量的に取組や環境の状態を把握していきます。

### ●進行管理の流れ

この計画を確実に進めていくために、下に示す流れに沿って、市民の参加を得ながら進行管理を進めます。



### ●目指す成果(目標値)

本計画では、以下のように目標値を設定して進めます。

指標	現況値 (H18)	目標値
一人当たり公園・緑地面積	5.10 m <sup>2</sup>	5.83 m <sup>2</sup> (平成 23 年度)
BOD 環境基準達成率	85.3%	100%
市管理施設からの CO <sub>2</sub> 排出量	2,182t	毎年、平成 18 年度排出量の 1% 削減 (5 年で 5% 削減)
資源化率	29.9%	31.4% (平成 23 年度)
一人一日当たりごみ排出量	928g	838g (平成 23 年度)

# めざせ！ 1人、1日、1kg CO<sub>2</sub>削減

現在、国民1人あたりが排出するCO<sub>2</sub>量は、1日平均で約6kgです。オフィスや家庭で、さまざまな温暖化防止の取組を実践し、皆さんもぜひ、1人、1日、1kgのCO<sub>2</sub>削減を目指してください。家庭や職場から地球を守る！ そんな意気込みでがんばりましょう。

## ● チャレンジメニュー ●

### 1 温度調節で減らそう

夏の冷房時の設定温度を 26 から 28 に 2 高くする	83g
冬の暖房時の設定温度を 22 から 20 に 2 低くする	96g

#### 例えばこんな工夫

日差しが当たる窓にはカーテンやブラインドをおろすことで、室温の上昇が抑えられます。また、せっかく冷やしたり暖めたりした空気を逃がさないように、窓やドアはきちんと閉めましょう。エアコンのフィルターの汚れも消費電力増につながります。機器のメンテナンスにも気を使いましょう。

### 2 水道の使い方で減らそう

風呂のお湯を利用して身体や頭を洗い、シャワーを使わない	371g
シャワーの使用時間を1日1分短くする	74g
風呂の残り湯を洗濯に使いまわす	7g
入浴は間隔をあけず	86g

#### 例えばこんな工夫

風呂の残り湯を洗濯に使用したり、節水効果のあるシャワーヘッドなどの機器を導入することも効果的です。実際に使用してみると、それほど不自由を感じるものではありません。ぜひ一度チャレンジしてみてください。

### 3 自動車の使い方で減らそう

アイドリングを5分短くする	63g
通勤や買物の際にバスや鉄道、自転車を利用する	180g
発進時にふんわりアクセル「eスタート」をする	207g
加速の少ない運転をする	73g

#### 例えばこんな工夫

まず、エンジンの暖機から見直しましょう（最近の車はほとんど必要ないと言われています）。エンジンのオン・オフの頻度は、人の乗り降りの間や荷物の上げ下ろしなど通常の範囲でなら、バッテリーに対する影響もありません。1分以上の停止を目安に、エンジン停止を心掛けましょう。

### 4 商品の選び方で減らそう

古いエアコンを省エネタイプに買い替える	104g
古い冷蔵庫を省エネタイプに買い替える	132g
白熱電球を電球形蛍光灯に取り替える	45g

#### 例えばこんな工夫

エコ製品は様々な分野で開発されています。ガステーブルの内炎式バーナー、ソーラー発電機器、太陽熱温水器、CO<sub>2</sub>冷媒ヒートポンプ給湯器や家庭用潜熱回収型給湯器など。家屋の新築や改装などの際には、各分野のエコ製品を検討してみてください。

### 5 買い物とゴミで減らそう

買い物の際は、マイバックを持ち歩き、省包装の野菜を選ぶ	62g
水筒を持ち歩いてペットボトルの使用を削減する	6g
ゴミの分別を徹底し、廃プラスチックをリサイクル	52g

#### 例えばこんな工夫

スーパーの一部では、買い物袋が不要であることを示すカードが用意されています。コンビニでも購入した商品が少なければ、手提げ袋が必要か聞かれることがあります。こうした取組に積極的に応えることで、少しずつ意識を変えていきましょう。

### 6 電気の使い方で減らそう

冷房の利用時間を1時間減らす	26g
暖房の利用時間を1時間減らす	37g
主電源をこまめに切って待機電力を節約	65g
ジャーの保温をやめる	37g
夜中にジャーの保温をやめる	37g
ご飯は保温するよりレンジで解凍する	1g
電球（電球形蛍光灯）の点灯時間を短くする	2g
テレビを見ないときは消す（ブラウン管テレビ）	13g
使わないときは温水洗浄便座のフタを閉める	15g
温水洗浄便座の便座暖房の温度を低めに設定する	11g
冷蔵庫の扉を開けている時間を短くする	3g
1日1時間パソコン利用を減らす（デスクトップ型パソコン）	13g
1日1時間パソコン利用を減らす（ノート型パソコン）	2g

#### 例えばこんな工夫

電気製品が集中するのは、テレビやステレオ、キッチンまわり。使うたびに抜き差しするのが面倒ならば、まずは定期的にコンセントから全部外し、次に使う時にコンセントに挿し込むようにしては、ふだん使わないものほど、抜いたままの状態になるはずですよ。

### 7 その他

太陽光発電を新規に設置する	670g
太陽熱利用温水器を新規に設置する	408g
屋上緑化を新規に導入する	107g
冷蔵庫を壁から適切な間隔で設置する	19g
冷蔵庫にものを詰め込み過ぎない	18g
ガスコンロの炎をなべ底からはみ出さないように調節する	5g
やかんや鍋を火にかけるときは、やかんの底や鍋底の水滴を拭き取る	1g
食器を洗うときガス給湯器の温度を低く設定する	29g
給湯器を高効率給湯器(CO <sub>2</sub> 冷媒ヒートポンプ型)に買い替える	607g
給湯器を高効率給湯器(潜熱回収型)に買い替える	208g

チーム - 6% 「めざせ！ 1人、1日、1kg CO<sub>2</sub>削減」より

